

校舎の補修も少しずつ進んでいます。

1964年(昭和39年)に現在の校舎が建てられてから60年以上が経ち、校舎の至るところに経年による劣化が目立つようになってきました。

そんな中でも、「この古さが魅力的!」とおっしゃってくださる方々がいる一方で、私たちはこの校舎を安全な形で未来に残していきたいと強く願っています。

この課題をどのように乗り越えていくべきか悩んでいたところ、とても特別な出会いがありました。

いつものように来訪者の方に、自分が分校に通っていた頃の話をしていました。その日は何気ない風景の一つでしたが、話しかけた男性が分校に特別な思いを抱いてくださっていることを知りました。そしてその方は、なんと大工さんだったのです。

私が校舎の補修をどう進めるべきか悩んでいることを話すうちに、彼が補修作業を引き受けてくださることになりました。素人の手で補修を進めていこうとしていた私たちにとって、まさに救世主のような存在です。

現役の大工さんであるため、仕事の合間を縫って少しずつ補修作業を進めてくださっています。しかし一步一步着実に、この分校を未来につなげる活動は進んでいます。

広島県出身のこの大工さんを全力でサポートし、この活動がさらに広がりを見せられるよう、私たちも力を尽くしてまいります。



傷んだ建具の突板



アトリエで補修作業



Instagramで進捗報告中

発行日 2025/2/1
NPO 法人霜里学校
編集 小熊 健一

分校のある風景

霜里学校便り

下里地区のみなさま、日頃よりNPO法人霜里学校の活動にご理解ご協力を賜りありがとうございます。“分校のある風景”霜里学校便りはNPOの日々の活動をレポートいたします。インターネットでも活動の様子を随時掲載中です。「霜里学校」で検索してください。

4月6日に“さくら祭り2025”開催します！

2025年が明け、早いもので一ヶ月が経ちましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

「冬来たりなば春遠からず」—本来の意味とは異なりますが、今回は文字通りの意味で使わせていただきます。

下里の春といえば、皆さんそれぞれ思い浮かべる景色があることと思います。私の場合、子どもの頃から分校の桜が真っ先に浮かびます。そして最近では、分校で行われる「さくら祭り」の様子も一つの風景として加わりました。

いつの日か、下里地区にお住まいの多くの皆さんにも、この桜を特別に感じていただけるようにと願いを込めて、今年も「さくら祭り」を下里分校で開催いたします！

分校の桜もずいぶん老木となり、以前のような華やかさは薄れてきましたが、その分、味わい深い大人の役者のような風情があり、これはこれで趣があるのではないかと考えています。

とはいえ老木ですので、専門の造園屋さんに手入れをお願いしたり、新しく苗木を植えたりと、桜が絶えてしまわないようさまざまな取り組みを行っています。

詳細については、後日回覧にてお知らせいたします。

桜の咲く季節に、皆さまとお会いできることを楽しみに、準備を進めております。